

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン マッシュョウガクエン 学校法人 松商学園									
フリガナ大学の名称	マツモトダイガク 松本大学 (Matsumoto University)									
大学本部の位置	長野県松本市大字新村2095番地1号									
大学の目的	松本大学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、本学園創立の精神たる自主独立に基づく人間教育を行うことにより、地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材を育成し、もって平和で豊かな社会の創造に貢献することを目的とする。									
新設学部等の目的	地域社会の要請に応えるため、総合経営学部総合経営学科の入学定員を80名から90名に、人間健康学部スポーツ健康学科の入学定員を80名から100名に定員増する。併せて、人間健康学部健康栄養学科の入学定員を80名から70名に定員減する。以上により大学全体の定員が増加するので、収容定員増加の学則変更を行う。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	総合経営学部 総合経営学科	年	人 90 (80)	年次 人 3年次 5	人 370 (330)	学士 (総合経営学)	平成30年4月 第1年次	長野県松本市大字新村 2095番地1号		
	観光ホスピタリティ学科	4	80	3年次 5	330	学士 (総合経営学)	平成18年4月 第1年次	同上		
	人間健康学部 健康栄養学科	4	70 (80)	3年次 5	290 (330)	学士 (健康栄養学)	平成30年4月 第1年次	同上		
	スポーツ健康学科	4	100 (80)	3年次 5	410 (330)	学士 (スポーツ健康学)	平成30年4月 第1年次	同上		
	教育学部 学校教育学科	4	80	— 3年次	320	学士 (教育学)	平成29年4月 第1年次	同上		
計		420 (400)	20	1,720 (1,640)						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	—	講義	演習	実験・実習	計	— 単位				
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	総合経営学部 総合経営学科	人 13 (13)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 14 (14)	人 0 (0)	人 17 (17)	
		観光ホスピタリティ学科	8 (8)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	22 (22)	
	人間健康学部 健康栄養学科	6 (6)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	14 (14)	6 (6)	17 (17)		
	スポーツ健康学科	9 (9)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	20 (20)		
	教育学部 学校教育学科	10 (11)	6 (8)	4 (4)	0 (0)	20 (23)	0 (0)	37 (37)		
計		46 (47)	16 (18)	15 (15)	0 (0)	77 (80)	7 (7)	— (—)		
既設	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
計		— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
合計		46 (47)	16 (18)	15 (15)	0 (0)	77 (80)	7 (7)	— (—)		

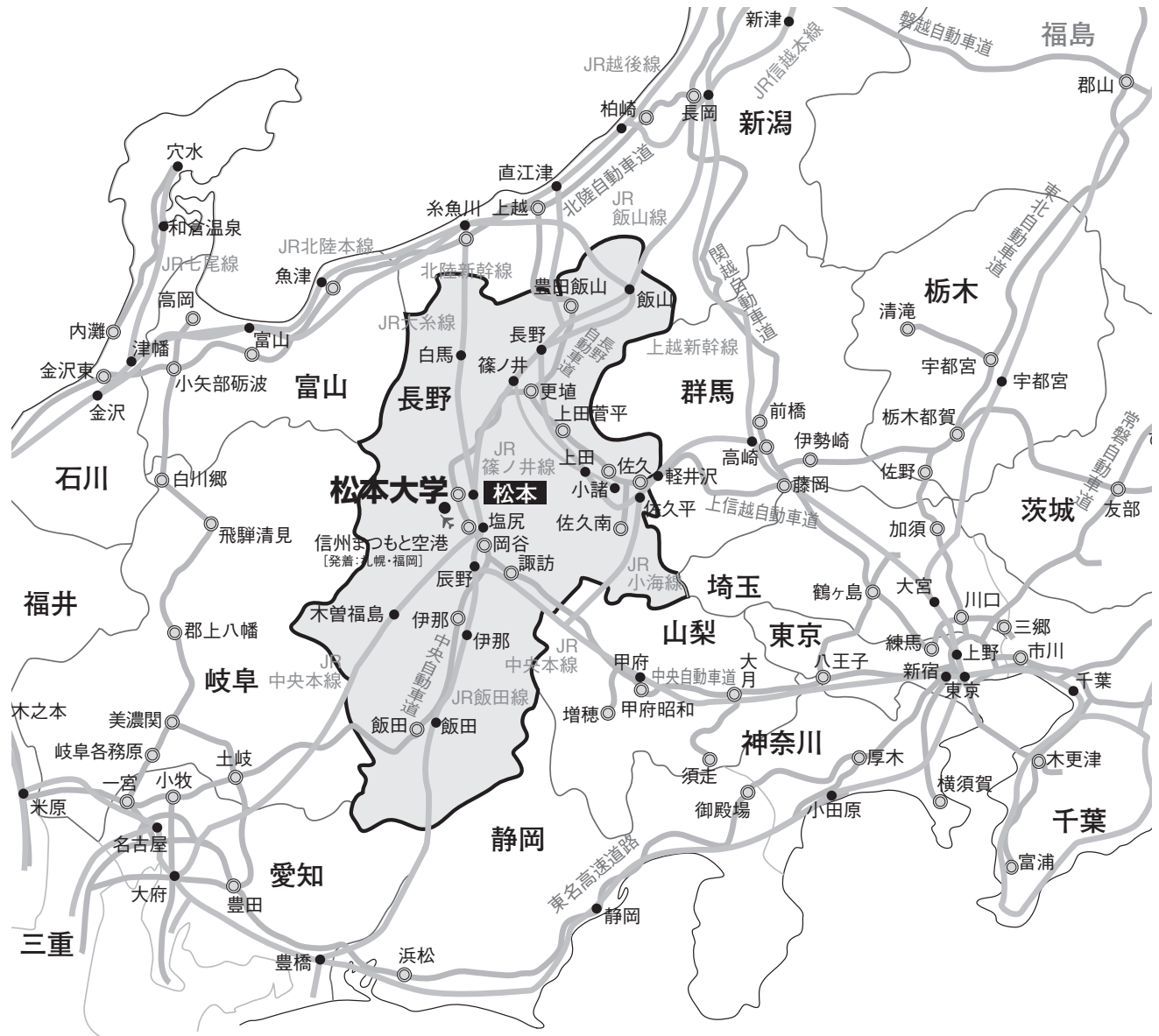
教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	松本大学及び松本大学松商短期大学部全体				
	事 務 職 員		40 (40)	28 (28)	68 (68)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	4 (4)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	6 (6)	6 (6)					
	計		41 (41)	38 (38)	79 (79)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	松本大学松商短期大学部（必要面積4,000㎡）と共用 総合グラウンド借用面積 17,879㎡ 借用期間 平成22年4月1日～49年3月31日				
	校 舎 敷 地	5,465.64 ㎡	31,163.22 ㎡	2,014.94 ㎡	38,643.80 ㎡					
	運 動 場 用 地	0.00 ㎡	35,783.23 ㎡	0.00 ㎡	35,783.23 ㎡					
	小 計	5,465.64 ㎡	66,946.45 ㎡	2,014.94 ㎡	74,427.03 ㎡					
	そ の 他	0.00 ㎡	20,278.07 ㎡	0.00 ㎡	20,278.07 ㎡					
	合 計	5,465.64 ㎡	87,224.52 ㎡	2,014.94 ㎡	94,705.10 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	松本大学松商短期大学部（必要面積3,200㎡）と共用				
		15,361.59 ㎡ (15,361.59 ㎡)	7,168.09 ㎡ (7,168.09 ㎡)	4,292.22 ㎡ (4,292.22 ㎡)	26,821.90 ㎡ (26,821.90 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	松本大学全体 情報処理学習施設は松本大学松商短期大学部と共用（情報処理学習施設は語学学習施設としても使用。）				
	27 室	6 室	27 室	7 室 (補助職員 3人)	0 室 (補助職員 一人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		大学全体		84 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	松本大学及び松本大学松商短期大学部と共用	
	大学全体		124,000 [12,500] (112,000 [12,100])	241 [42] (241 [42])	12 [12] (12 [12])	3,140 (2,740)	3,000 (2,800)	190 (150)		
	計		124,000 [12,500] (112,000 [12,100])	241 [42] (241 [42])	12 [12] (12 [12])	3,140 (2,740)	3,000 (2,800)	190 (150)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		松本大学及び松本大学松商短期大学部全体		
		1,220.78 ㎡		209 席		169,000 冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		第一 1964.05㎡ 第二 881.49㎡		硬式野球場1面、弓道場、テニスコート2面、室内練習場						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—	—	
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	—	—	
		図書購入費	6,960千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	—	—	
	設備購入費	30,226千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	45,000千円	—	—		
	学生1人当り納付金	学科	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		総合経営	1,230 千円	980 千円	980 千円	980 千円	— 千円	— 千円		
		観光ホスピタリティ	1,230 千円	980 千円	980 千円	980 千円	— 千円	— 千円		
		健康栄養	1,480 千円	1,230 千円	1,230 千円	1,230 千円	— 千円	— 千円		
		スポーツ健康	1,380 千円	1,130 千円	1,130 千円	1,130 千円	— 千円	— 千円		
学校教育	1,330 千円	1,080 千円	1,080 千円	1,080 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

既設大学等の状況	大学の名称	松本大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	健康科学研究科	2	6	1	12	修士(健康科学)	0.99	平成23年度	長野県松本市大字 新村2095番地 1号
	総合経営学部			3年次			1.16		
	総合経営学科	4	80	5	330	学士(総合経営)	1.16	平成14年度	
	観光ホスピタリティ学科	4	80	5	330	学士(総合経営)	1.15	平成18年度	
	人間健康学部						1.13		
	健康栄養学科	4	80	5	330	学士(健康栄養学)	0.98	平成19年度	
	スポーツ健康学科	4	80	5	330	学士(スポーツ健康学)	1.28	平成19年度	
教育学部						0.81			
学校教育学科	4	80	1	320	学士(教育学)	0.81	平成29年度		
大学の名称	松本大学松商短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
商学科	2	100	1	200	短期大学士(商学)	1.14	昭和28年度	長野県松本市大字 新村2095番地 1号	
経営情報学科	2	100	1	200	短期大学士(経営情報学)	1.13	平成4年度		
附属施設の概要	該当なし								

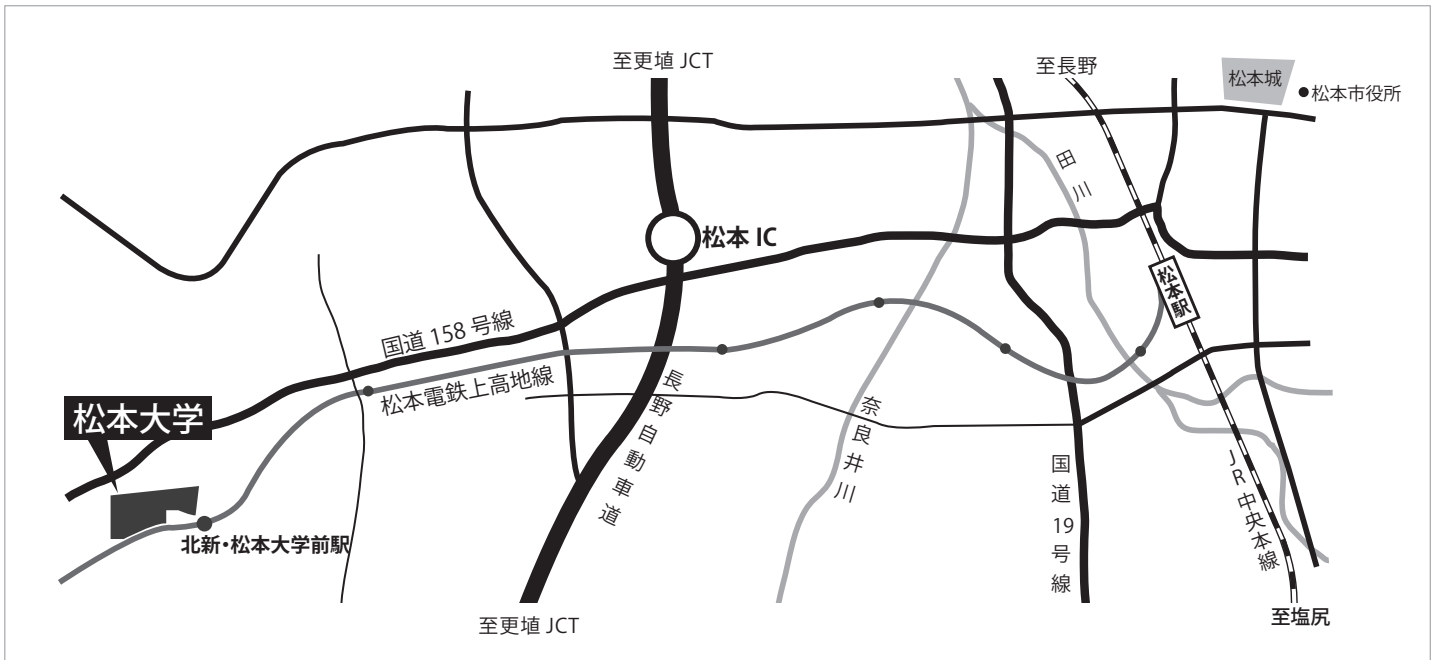
## 学校法人松商学園 設置認可等に関する組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
松本大学大学院					松本大学大学院				
健康科学研究科					健康科学研究科				
健康科学専攻(M)	6	—	12		健康科学専攻(M)	6	—	12	
計	6	—	12		計	6	—	12	
松本大学				→	松本大学				
総合経営学部 3年次					総合経営学部 3年次				
総合経営学科	80	5	330		総合経営学科	<u>90</u>	5	<u>370</u>	定員変更(10)
観光ホスピタリティ学科	80	5	330		観光ホスピタリティ学科	80	5	330	
人間健康学部 3年次					人間健康学部 3年次				
健康栄養学科	80	5	330		健康栄養学科	<u>70</u>	5	<u>290</u>	定員変更(△10)
スポーツ健康学科	80	5	330		スポーツ健康学科	<u>100</u>	5	<u>410</u>	定員変更(20)
教育学部 3年次					教育学部 3年次				
学校教育学科	80	—	320		学校教育学科	80	—	320	
計	400	20	1,640		計	<u>420</u>	20	<u>1,720</u>	
松本大学松商短期大学部					松本大学松商短期大学部				
商学科	100	—	200		商学科	100	—	200	
経営情報学科	100	—	200		経営情報学科	100	—	200	
計	200	—	400		計	200	—	400	

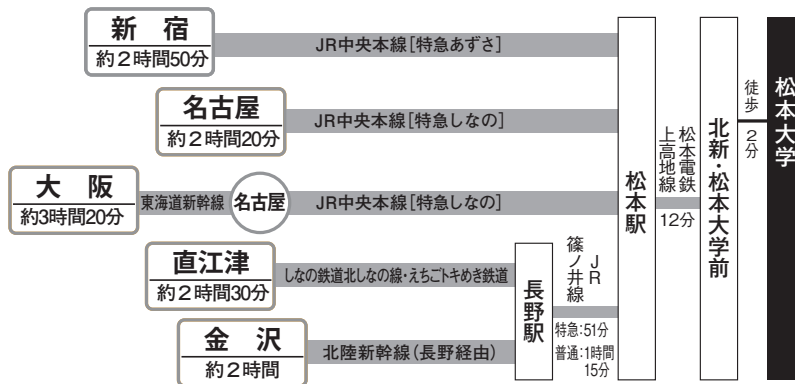
(1) 都道府県内における位置関係の図面



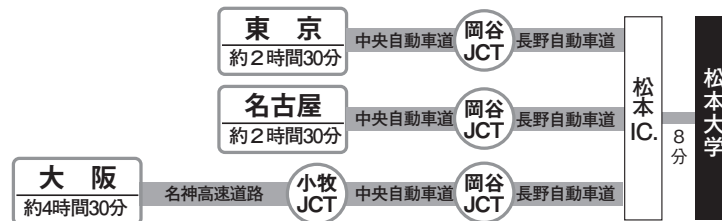
(2) 最寄りの駅からの距離や交通機関がわかる図面



▼ 電車の場合



▼ 車の場合



### (3) 校舎、運動場等の配置図 (完成年度のもの)



- 総合経営学部(総合経営学科・観光ホスピタリティ学科)専用  
および 大学院・大学・短期大学部 共用
- 人間健康学部(健康栄養学科・スポーツ健康学科)専用
- 他学部 専用
- 大学院・大学 共用
- 大学院・大学・短期大学部 共用
- 短期大学部 専用

- A** 校舎敷地(大学・短大・大学院) 38,642.80㎡(所有) 松本市新村2095-1
- B** 運動場用地(野球場) 11,785.23㎡(所有) 松本市新村2095-1
- C** 運動場用地(多目的グラウンド) 4,855.22㎡(所有) 松本市新村2095-1
- D** 運動場用地(テニスコート) 1,263.78㎡(所有) 松本市新村2095-1
- E** 運動場用地(総合グラウンド) 17,879.00㎡(借用) 松本市新村1949-1
- F** その他(学生用第1駐車場) 5,805.22㎡(所有) 松本市新村2129-3
- G** その他(学生用第2駐車場) 7,661.00㎡(借用) 松本市新村2098-3
- H** その他(実習農地) 6,264.00㎡(借用) 松本市新村1952-1
- I** その他(教職員駐車場) 446.85㎡(所有) 松本市新村2342-1
- J** その他(看板用地) 101.00㎡(所有) 松本市新村官南2149-7

No.	建物区分	構造	計(㎡)	
1	1号館校舎	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	2,673.78	
2	2号館校舎	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	1,618.44	
3	3号館校舎	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	1,775.37	
4	4号館校舎	鉄筋コンクリート造陸屋根・亜鉛メッキ鋼板葺3階建	3,572.26	
5	5号館校舎	鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板葺3階建	4,195.11	
6	6号館校舎	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	5,637.11	
7	7号館校舎	鉄筋コンクリート造陸屋根・亜鉛メッキ鋼板葺3階建	1,731.75	
8	8号館	校舎部分	鉄筋コンクリート造4階建一部鉄骨平家建	3,716.90
		体育館部分		881.49
9	図書館	鉄筋コンクリート造陸屋根ルーフ葺3階建	1,220.78	
10	フォレストホール	鉄筋コンクリート造コンクリート陸屋根2階建	680.40	
11	部室棟	鉄筋コンクリート造1階建	291.65	
12	テニスコート西倉庫	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	67.25	
13	第一体育館	鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板葺2階建	1,964.05	
14	第一体育館東部室	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	205.20	
15	第一体育館西部室	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	205.20	

No.	建物区分	構造	計(㎡)
16	第一体育館外便所	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建	32.49
17	第一体育館外物置	鉄筋コンクリート造コンクリート屋根平家建	15.77
18	部室増築棟	軽量鉄骨造合金メッキ鋼板葺2階建	111.64
19	弓道場	鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板葺平屋建	24.30
20	屋内練習場	鉄骨鋼板平屋建	197.60
21	1号館北倉庫	鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	84.70
22	4号館北倉庫	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	66.22
23	中央機械棟	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	599.59
24	屋根付ブルボン捕手側	鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建	55.52
25	屋根付ブルボン投手側	鉄骨造合金メッキ鋼板葺平家建	107.32
26	野球場監督室・放送室	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺2階建	25.06
27	屋外トイレ	鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板葺平屋建	29.16
28	総合グラウンド倉庫	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	35.54
29	男子更衣室	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	9.94
30	女子更衣室	軽量鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺平家建	9.94

## 学則の変更の趣旨等を記載した書類

### ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

平成 30（2018）年 4 月 1 日より、総合経営学部総合経営学科の入学定員 80 人を 10 人増の 90 人に、人間健康学部スポーツ健康学科の入学定員 80 人を 20 人増の 100 人に、また、人間健康学部健康栄養学科の入学定員 80 人を 10 人減の 70 人にそれぞれ変更する。ただし、編入学定員については、現行どおりとし変更しない。これにより、収容定員は 1,640 人から 1,720 人となり、80 人の増加となる。

こうした措置は、平成 14（2002）年 4 月開学以来、本学が掲げてきた使命・目的である「地域社会に貢献できる人材の育成」に対する社会的評価とニーズの高まり、長野県と隣接県を中心とする受験生の進学ニーズの動向及び本学を取り巻く環境の変化等に鑑み、入学定員の適正規模について検証した結果であり、適正な定員管理に努めようとするものである。変更後の収容定員は表 1 のとおりである。

表 1 各学部学科の入学定員・編入学定員・収容定員

学部	学科	現行			変更後		
		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
総合経営学部	総合経営学科	80人	5人	330人	90人 (+10)	5人	370人 (+40)
	観光ホスピタリティ学科	80人	5人	330人	80人	5人	330人
	計	160人	10人	660人	170人 (+10)	10人	700人 (+40)
人間健康学部	健康栄養学科	80人	5人	330人	70人 (-10)	5人	290人 (-40)
	スポーツ健康学科	80人	5人	330人	100人 (+20)	5人	410人 (+80)
	計	160人	10人	660人	170人 (+10)	10人	700人 (+40)
教育学部 (平成29年4月設置)	学校教育学科	80人	0人	320人	80人	0人	320人
	計	80人	0人	320人	80人	0人	320人
合計		400人	20人	1,640人	420人 (+20)	20人	1,720人 (+80)

・（ ）内は差異を示す。



## イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

### (1) 受験生の進学ニーズと定員管理の厳格化

平成 14（2002）年 4 月に総合経営学部総合経営学科の単科大学として開学した松本大学（以下、本学）は、平成 18（2006）年 4 月、観光県である地元長野県、松本市等の期待に応えようと観光ホスピタリティ学科を設置した。更に、平成 19（2007）年 4 月には、健康栄養学科とスポーツ健康学科の 2 学科で構成する人間健康学部を設置し、その後、平成 23（2011）年 4 月には、松本大学大学院健康科学研究科を開設した。また、これまで築き上げてきた地域社会との良好な連携関係を背景に、平成 29（2017）年 4 月、新たに県内高校生のニーズが高い教育学部を設置し、「地域社会に貢献できる人材の育成」の分野を拓げようとしている。

本学の使命・目的は、学則第 2 条に「本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、本学園創立の精神たる自主独立に基づく人間教育を行うことにより、地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材を育成し、もって平和で豊かな社会の創造に貢献することを目的とする」と定めており、本学が輩出してきた人材と相まって、広く地域に浸透している。

今般、収容定員を変更することにより受験生のニーズに応え、定員管理の厳格化に努めることで、教育・研究活動の質的低下を招くことなく、更に充実した学修機会を提供したいと考えている。表 1 に示した総合経営学科、健康栄養学科、スポーツ健康学科の収容定員を変更する必要性とその背景は次のとおりである。

#### (a) 総合経営学科

過去 5 ヶ年の志願倍率は、表 2 のとおり平均値で 2.05 倍である。また、入学率（入学者数／合格者数）は 73.3%であり、過去 5 ヶ年の入学定員超過率（入学者数／入学定員）の平均は 1.20 倍である。この数値は受験生の旺盛な進学ニーズに応えて、本学が学生を受け入れてきた結果であり、少しでも多くの学生に教育機会を与え、より多くの有為の人材を輩出しようという社会的責任を踏まえたものである。今般の収容定員 40 人増の変更は、受験生のニーズに応え、更に定員の管理を厳格化するために必要な措置であると認識している。

表 2 総合経営学科の過去 5 ヶ年の志願者数等

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	146	167	176	127	204	164
志願倍率	1.83	2.09	2.20	1.59	2.55	2.05
合格者数	124	128	137	120	148	131
入学者数	94	95	92	87	114	96
入学率	75.8%	74.2%	67.2%	72.5%	77.0%	73.3%
入学定員超過率	1.17	1.18	1.15	1.08	1.42	1.20

(b) スポーツ健康学科

過去5カ年の志願倍率は、表3のとおり平均値で2.41倍であり、本学にあっては高い数値である。更に、入学率も80.4%と他学科よりも高い数値を示しており、受験生からのニーズが高いことが窺える。また、過去5カ年の入学定員超過率が1.28倍であることは、本学での学修を望む多くの受験生の期待に可能な限り応えてきた結果である。今般の収容定員80人増の変更は、このような受験生からの高いニーズに的確に応え、本学の人材育成における社会的責任を果たそうとするものである。

表3 スポーツ健康学科の過去5カ年の志願者数等

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	165	219	197	197	185	193
志願倍率	2.06	2.74	2.46	2.46	2.31	2.41
合格者数	125	126	134	138	119	128
入学者数	102	101	104	105	103	103
入学率	81.6%	80.2%	77.6%	76.1%	86.6%	80.4%
入学定員超過率	1.27	1.26	1.30	1.31	1.28	1.28

(c) 健康栄養学科

過去5カ年の志願倍率の平均値は、表4のとおり2.51倍であるが、入学率は61.5%と他学科に比べると低い数値となっている。その主因として、健康栄養学科の受験生に占める県外の高校生の割合が他学科に比べて高く、県外の高校生が必ずしも本学を第一志望としていないことが挙げられる。

平成26(2014)年度には、80人の入学定員に対して入学者が65人であり、定員充足率は81.3%であった。また、平成24(2012)年度、平成25(2013)年度に200人を超えていた志願者数が平成26(2014)年度から平成28(2016)年度にかけて200人を割り込み減少傾向にある。

更に、平成30(2018)年度に開設される長野県立大学に管理栄養士を養成する学科が定員30人で発足する予定であり、本学の健康栄養学科と学生募集において競合することになる。

平成28(2016)年度の在籍者の上位10の出身市等別の人数と割合は表5のとおりであり、長野県立大学が位置する長野市が最も高く17.3%である。また、上位10市等を見ると、長野県の北信地域の長野市、千曲市、須坂市や隣接する東信地域の上田市出身の学生の占める割合が高く、全体の29.3%を占めている。過去5カ年の学生の志願動向と長野県立大学の設立による学生募集環境の変化に鑑み、学生の進学ニーズにあった適正な収容定員規模にダウン・サイジングする必要があると思料するため、見直しを行うものである。

表4 健康栄養学科の過去5ヵ年の志願者数等

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	225	246	146	197	188	200
志願倍率	2.81	3.08	1.83	2.46	2.35	2.51
合格者数	127	130	125	162	140	137
入学者数	87	92	65	92	83	84
入学率	68.5%	70.8%	52.0%	56.8%	59.3%	61.5%
入学定員超過率	1.08	1.15	0.81	1.15	1.03	1.04

表5 平成28年度健康栄養学科在籍者の上位10の出身市等の比率

順	出身地	人数	割合
1	長野市（北信地区）	58	17.3%
2	松本市	50	14.9%
3	新潟県	35	10.4%
4	安曇野市	18	5.4%
4	上田市（東信地区）	18	5.4%
6	伊那市	16	4.8%
7	山梨県	15	4.5%
8	千曲市（北信地区）	13	3.9%
9	塩尻市	9	2.7%
9	須坂市（北信地区）	9	2.7%
上位10地区計		241	71.9%
在籍者数		335	100%

以上のような本学に対する高校生の進学ニーズと本学を取り巻く学生募集環境の変化を踏まえ、総合経営学科、健康栄養学科、スポーツ健康学科の収容定員を表1のとおり見直すことが、定員の適正な管理のために必要であると考えます。

## ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

### （ア）教育研究上の目的及び教育課程

今般、収容定員の変更を行う総合経営学科、健康栄養学科、スポーツ健康学科の教育研究上の目的は、それぞれ次のとおりであり、いずれも学則第4条2項に規定している。

#### 〔総合経営学科〕

社会一般及び地域社会を構成する重要な要素である企業に関わる総合的な経営知識を教授し、地域社会の運営を視野に入れて行動しうる、良識ある企業人の養成を目指すとともに、企業社会で活動するための知識・技術を涵養する。

#### 〔健康栄養学科〕

(1) 疾病を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するため、食や健康そして障がいに関わる問題を教育・研究する。(2) 人間の栄養状態を的確に把握し、適正化する方法を健康科学の面から探求し、専門分野において社会に貢献できる人材を育成する。(3) 人々の健康づくりおよび、地域の活性化に関わる課題を「人間栄養学」の視点から健康と栄養との関係を捉え、総合的に分析、評価できる高い専門性を備えた人材を育成する。

#### 〔スポーツ健康学科〕

(1) 人々の健康づくりおよび、地域の活性化に関わる課題を「運動・スポーツ」の視点から研究・教育する。(2) 幅広い教養と人間力を土台に、「運動・スポーツ」を学際的・総合科学的視点から捉え、多角的に分析・把握できる高度な専門性と実践力を備えた人材を育成する。

今般の収容定員の変更に伴って、上記の教育研究上の目的及び教育課程の変更は行うことなく、今後とも地域社会の振興と地域文化の発展に資する人材の養成に継続的に取り組むこととする。

### (イ) 教育方法及び履修指導方法

今般、収容定員の変更を行う学部・学科の教育方法及び履修指導方法は次のとおりである。

#### 1) 教育方法

##### ①総合経営学部総合経営学科

総合経営学部総合経営学科は、経営学や ICT 技術などの専門基礎科目に加え、産業心理（ヒト）、マーケティング（モノ）、経済・金融（カネ）及び消費生活に関する専門応用・展開科目を配置している。「企業マネジメント」「生活マネジメント」「地域産業」の3本の学びの柱の下に、学生の体系的な学修を促すカリキュラムツリー（資料1）を構築し、科目間の関連性を重視していく。また、カリキュラムツリー構築のコンセプトとなる、各年次の学修到達目標を全学的に共有し、学則に規定する教育研究上の目的を達成すべく授業を展開していく。各学年の到達目標は次のとおりである。

- 1年次：経営についての基礎知識を有している。社会の仕組みを知り、ひろく教養を身につけ、キャリア選択についての基礎的な考えが身についている。
- 2年次：経営についての具体的な知識を有し、高度化・複雑化する ICT 化社会において求められる技術及びリテラシーの基礎知識を身につけ、社会人として適切かつ広い視野が身についている。
- 3年次：経営に求められる知識を有し、企業経営についてマクロ的・ミクロ的視点か

ら分析を試みることができる。また、地域産業を理解し、地域社会で生きるための知識と技術を有し、広い視野からキャリア選択をする力が身についている。

4年次：地域社会において、社会人として生きるための知識や技能を有し、地域産業の現状と課題を理解し、地域社会に貢献できる基礎力が身についている。

## ②人間健康学部健康栄養学科

人間健康学部健康栄養学科は、管理栄養士養成課程を中心に据え、基本的には管理栄養士国家試験の受験を目指す教育を実施していく。管理栄養士国家試験受験資格を取得することを前提としながらも、社会の多様なニーズに対応できる人材育成を目指して「臨床栄養コース」、「スポーツ栄養コース」、「食品安全コース」、「フードデザインコース」の4つのカリキュラムコースを設定することで、希望する進路を意識した学びをより可能なものとしている。健康栄養学科のカリキュラムツリー（資料2）と各学年の到達目標は次の通りである。

1年次：学ぶことの意味や方法を理解し、専門基礎が身についている。人体や食品に関する基礎知識と調理の実践力が身についている。

2年次：食と栄養に関わる基礎力、科学的な考え方、社会における課題発見能力の基礎が身についている。科学的な方法論、食と栄養に関する地域の課題発見と社会への還元力が身についている。

3年次：食と栄養に関わる課題解決力を身につけ、地域社会や医療現場へ貢献できる能力が身についている。食と栄養に関する応用、実践力が身についている。

4年次：医療現場における実習を行い、栄養と健康を通じて社会に貢献できる力が身についている。地域社会の栄養と健康に関する課題を把握し、これまでの学修をもとに、課題解決力をみがく。

## ③人間健康学部スポーツ健康学科

人間健康学部スポーツ健康学科は、地域の活性化に関わる課題を「運動・スポーツ」の視点から教育することを目的に、「運動・スポーツ」を学際的・総合科学的視点から捉え、多角的に分析・把握できる専門性と実践力を備えた人材を育成する教育を展開している。

本学科の専門教育が将来の職業選択に有機的に繋がることを想定し、「予防医学・健康づくり」、「ヘルスケア・スポーツビジネス」、「学校体育・健康教育」の学びの3本柱を立てている。それを踏まえ、1年次の健康づくりや運動に関する基礎理論からスタートし、実践・実習と課題の把握と分析まで、体系的に教授していく。スポーツ健康学科のカリキュラムツリー（資料3）と各学年の到達目標は次のとおりである。

1年次：健康づくりや運動について理論や根拠に基づいた基礎的知識を身につけている。スポーツビジネスや地域社会に関心を持ち課題を発見できる力を身につけている。また、人々とかかわる上で必要な社会性やコミュニケーション能力を身につけている。

2年次：科学的根拠に基づいた知識や技術を実習や演習で実践することができ、実施し

たことを分析できる能力を身につけている。コミュニケーション能力を活かし、指導やプレゼンテーションをできる力を身につけている。

3年次：これまでに修得した知識や技術を活かし、健康の維持・増進並びにスポーツ振興における課題を見出し、解決策を検討する力を身につけている。実習や演習を行っていく中で、他者への配慮ができ、自己の課題を把握できる。

4年次：実践、実習を積み重ねる中で、広い視野で分析、理解し、自己の課題解決や現代的な健康課題について自ら判断し、行動する能力を身につけている。健康の維持増進並びに、スポーツ振興に関わる研究に取り組むことができる。

#### ④総合経営学部・人間健康学部の教養教育

教養科目は、ほぼ全学共通の形で開講し、「コモン・ベイシックス」、「ヒューマン・ベイシックス」、「導入科目」に大別した科目群で構成している。本学が考える教養教育の実現のために、学生が学ぶ内容をモジュール化し、それを的確に表すテーマで表現して学生の履修意識・目的をより高めることを企図したものである。

「コモン・ベイシックス」では、「外国語」、「情報リテラシー」モジュールを、「ヒューマン・ベイシックス」では、「人間といのちを考える」、「現代の日本社会を理解する」、「地域を考える」、「異文化理解と国際交流」、「環境・自然を科学する」の5つのモジュールを配置している。更に、各学科のカリキュラムツリー（資料1・2・3）において、専門科目と並行して教養科目の学びのロードマップを示し、教養科目それぞれの位置づけを明確にし、全学的共通理解の下に授業を展開していく。

## 2) 履修指導方法

履修指導については、各学期が始まる前に、全学科全学年で教務委員会がオリエンテーションを開催する形をとっている。具体的には、履修規程に基づき、授業科目の履修方法、演習科目や実習科目の実施要領、ゼミナールの選択、CAP制、他学部他学科科目の履修方法、教職科目の履修方法等について説明する。オリエンテーションでは、教務課と教務委員会委員の教員で毎年編集する学部毎の「履修登録の手引き」を全学生に配付する。

学生個別の相談については、クラス・ゼミナール担当教員を中心とする専任教員と教務課員が連携して対応する指導体制を更に強化し、学生の学修目標に沿った履修指導をいっそうきめ細かく行いながら、履修指導の体制をより充実させていく。

また、シラバスは学生にとって重要な学びのガイドラインの役割を持つため、各項目について詳細に記述することを全教員に義務づけている。更に、カリキュラムマップやカリキュラムツリーとの関連性を継続して明示しておくことで、学生が目的をもって体系的に学修することを支援していく。

特に、新入生に対しては、初年次から大学教育にスムーズに入れることを目的に実施する、独自の入学前教育を履修指導の一環として位置づけ継続していく。本学の入学前教育における履修指導の流れは全学科共通で、次の三段階で行う。

① 最初の入学前教育では、高校と大学の学びの違い、生活の違いについて理解を深めるために、グループ・ワークを導入している。先輩との話し合いの場が設定されることに

加え、同じグループに入った入学予定者同士でワークするため、入学前から仲間づくりがスタートしており、入学後の不安の解消に繋がっている。

- ② 次に入学予定者全員に対し、キャリアカウンセラーによる 1 人当たり 45 分程度のキャリア面談を実施する。学生が期待する学生生活や入学に際して心配な点について担当者が傾聴し、学生一人ひとりが自己肯定することによる学修意欲の高まりをサポートしていく。
- ③ 最後に入学前集合セミナーにおいてシラバスの見方を解説しながら、仮の学修目標を設定し、その実現に向けた時間割を組み立てる体験を通じて、入学後スムーズに履修登録ができるように指導していく。

今般の収容定員の変更に伴う、教育方法及び履修指導方法の変更は行わないが、これまでに構築してきたシステムを基に、いっそうきめ細かな教育指導、履修指導を実施し、十分な対応を行う。

#### (ウ) 教員組織

今般、収容定員の変更を行う 2 学部（総合経営学部、人間健康学部）と教育学部の 3 学部で構成する本学の教員組織は、表 6 のとおり平成 29（2017）年 4 月 1 日現在の専任教員数において大学設置基準第 13 条に定める専任教員数（①学部の種類により定められた人数 ②大学全体の収容定員に応じて定める人数 ③半数以上が教授であること）を上回る人員を配置し、教育研究上の目的を達成し得る教育研究体制を整備している。

今般の収容定員変更に伴い、更に高い教育効果をもって教育研究上の目的を達成するために、平成 30（2018）年 4 月に向けて次のとおり専任教員の増員を図ることにより、教員組織を強化していく計画である。

総合経営学科においては、学則に定める教育研究上の目的の「企業に関わる総合的な経営知識を教授」を強化するために、経営学・商学分野の専任教員 1 名の増員を予定している。

スポーツ健康学科においては、「運動生理学分野」と「運動物理学分野」の専任教員をそれぞれ 1 名の計 2 名を増員する予定である。

健康栄養学科においては、収容定員を減じる措置を講ずるが、現状の教員組織を保持し、より高い教育効果を生むために、更にきめ細かな教育研究を推し進めることとする。

以上のような対応により、今般の収容定員の変更後においても、各学科の教育研究上の目的を達成するに十分な教員組織を整備できていると認識している。

表 6 専任教員数及び大学設置基準上の必要教員数 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

学部	学科	専任教員数		設置基準上の必要教員数		差異	
		教員数	教授数 (内数)	学部の種類	教授数 (内数)	教員数	教授数 (内数)
総合経営	総合経営	13	12	8	4	5	8
	観光ホスピタリティ	13	7	8	4	5	3
人間健康	健康栄養	14	6	10	5	4	1
	スポーツ健康	13	7	12	6	1	1
教育	学校教育	19	9	10	5	9	4

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

学部	学科	専任教員数		設置基準上の必要教員数		差異	
		教員数	教授数 (内数)	学部の種類	教授数 (内数)	教員数	教授数 (内数)
総合経営	総合経営	14	13	8	4	6	9
	観光ホスピタリティ	14	8	8	4	6	4
人間健康	健康栄養	14	6	10	5	4	1
	スポーツ健康	15	9	13	7	2	2
教育	学校教育	23	11	10	5	13	6

### (エ) 大学全体の施設・設備

今般の収容定員の変更後も、現状の講義室、演習室等の施設を特段に拡充することなく、現状の教育研究環境と同等の環境を担保することが可能である。

設備については、学生の必要に応じて什器、実習機器等の追加購入を行い、現状と差異のないよう適切に整備する。

また、平成 26 (2014) 年度に、学生の地域連携活動の拠点となる「地域づくり考房『ゆめ』」の専用ルーム、ラーニング・コモンズ機能を有するコモンルーム、教職課程履修者のための学習室等を備えた 7 号館を建設したことにより、学修支援の環境は大きく向上している。更に、平成 28 (2016) 年度には、平成 29 (2017) 年 4 月開設の教育学部のための 8 号館を建設した。

本学においては、このように経年的に学修支援のための施設の充実を図っており、今般の収容定員変更後も、学則に掲げる各学科の教育研究の目的を達成するに足る施設・設備を有していると判断している。



## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ① 学生の確保の見通し

本学は平成14(2002)年4月開学以来、「地域社会に貢献できる人材の育成」を使命・目的として掲げてきた。それを基盤とする本学独自の「地域連携教育」による人材育成の成果に対する社会的ニーズと、長野県を中心とする受験生の進学ニーズの動向及び本学を取り巻く環境の変化等を踏まえ、入学定員の適正規模について検証した結果、表1のとおり収容定員を変更することとする。

表1 各学部学科の入学定員・編入学定員・収容定員

学部	学科	現行			変更後		
		入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
総合経営学部	総合経営学科	80人	5人	330人	90人(+10)	5人	370人(+40)
	観光ホスピタリティ学科	80人	5人	330人	80人	5人	330人
	計	160人	10人	660人	170人(+10)	10人	700人(+40)
人間健康学部	健康栄養学科	80人	5人	330人	70人(-10)	5人	290人(-40)
	スポーツ健康学科	80人	5人	330人	100人(+20)	5人	410人(+80)
	計	160人	10人	660人	170人(+10)	10人	700人(+40)
教育学部 (平成29年4月設置)	学校教育学科	80人	0人	320人	80人	0人	320人
	計	80人	0人	320人	80人	0人	320人
合計		400人	20人	1,640人	420人(+20)	20人	1,720人(+80)

・( )内の数値は増減を示す。

#### ア 定員充足の見込み

今般、収容定員の増加を行う総合経営学部総合経営学科と人間健康学部スポーツ健康学科は、受験生の継続的な進学ニーズによって、安定した入学者数を確保できている。総合経営学科(入学定員80人)の過去5ヵ年の入学定員超過率の平均値は1.20倍、スポーツ健康学科(入学定員80人)の同数値は1.28倍であり、高校生の「本学で学びたい」という意欲の高まりが窺える。(表2)

これら2学科の収容定員を増やすことにより、高校生の進学ニーズに応えつつ、定員管理

の厳格化にさらに努めることで、学修の質的低下を招くことなく、学則に掲げる教育研究活動を確実に遂行するものである。

なお、人間健康学部健康栄養学科については、本学を取り巻く学生募集の環境変化と学生のニーズに対応し、現行の入学定員 80 人から 10 人を減じ 70 人とすることで適正規模の運営を進める。その背景については後述する。

総合経営学科並びにスポーツ健康学科の平成 24（2012）年度から平成 28（2016）年度入試の過去 5 ヶ年の志願倍率は、年度毎に多少の増減はあるものの、全体として志願者は増加傾向にある。過去 5 ヶ年の倍率は、総合経営学科が 1.91 倍から 2.89 倍、スポーツ健康学科が 2.26 倍から 3.01 倍の間を推移し安定している。（表 3）

更に、平成 24（2012）年度の志願者数と平成 28（2016）年度の志願者数を比較した増加率は、総合経営学科は 140.85%、スポーツ健康学科は 108.29%であり、受験生の両学科に対する進学ニーズは経年的に高まっている。（表 4）

健康栄養学科は、平成 26（2014）年度に定員超過率は 0.81 倍で入学定員を割り込み、平成 28（2016）年度の志願者も前年度よりも減少している。また、平成 24（2012）年度の志願者数と平成 28（2016）年度の志願者数を比較した増加率は、85.65%と下降している。これらの現状を踏まえ、表 1 のとおり収容定員を減じ、適正規模の運営を進めたい。（表 2・表 3・表 4）

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

### （a）入学者数及び入学定員超過率

収容定員の増加を行う総合経営学部総合経営学科と人間健康学部スポーツ健康学科の入学者数及び入学定員超過率の詳細は、表 2 のとおりである。

総合経営学科の過去 5 ヶ年の入学者数の平均は 97 人で、年度毎の差異はあるものの定員を確実に充足できている。また、過去 5 ヶ年の入学定員超過率は、1.08 倍から 1.42 倍の間を推移している。平成 28 年度においては、過去の入学手続状況を踏まえて想定した入学率（入学者数／合格者数）を上回ったため、結果的に入学者が 114 人となり 1.42 倍の入学定員超過率となっている。

スポーツ健康学科の過去 5 ヶ年の入学者数の平均は 103 人で、いずれの年も 100 人台であり、入学定員を上回っている。また、過去 5 ヶ年の入学定員超過率は、1.26 倍から 1.31 倍の間を推移しており、本学科に対する受験生のニーズが安定的であることを読み取ることができる。

健康栄養学科の過去 5 ヶ年の入学者数の平均は 84 人であるものの、平成 26（2014）年度では、入学者が 65 人であり定員未充足の結果となっている。過去 5 ヶ年の入学定員超過率は、0.81 倍から 1.15 倍の間を推移しており、安定的に定員を充足できる可能性は高くないと判断している。

なお、今般の収容定員変更に伴い、各学科の定員管理についていっそうの厳格化を図ることとし、入学定員超過率の是正に努めていく。

表 2 過去 5 ヶ年の入学者数及び入学定員超過率

学部名	学科名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	過去5年平均
総合経営学部	総合経営学科 入学定員：80名	94人 1.17倍	95人 1.18倍	92人 1.15倍	87人 1.08倍	114人 1.42倍	97人 1.20倍
	観光ホスピタリティ学科 入学定員：80名	90人 1.12倍	89人 1.11倍	88人 1.1倍	99人 1.23倍	101人 1.26倍	94人 1.16倍
人間健康学部	健康栄養学科 入学定員：80名	87人 1.08倍	92人 1.05倍	65人 0.81倍	92人 1.15倍	83人 1.03倍	84人 1.02倍
	スポーツ健康学科 入学定員：80名	102人 1.27倍	101人 1.26倍	104人 1.30倍	105人 1.31倍	103人 1.28倍	103人 1.28倍

・各年度の上段が入学者数、下段が入学定員超過率を示す。

### (b) 志願者数及び志願倍率

収容定員の増加を行う総合経営学科とスポーツ健康学科の過去 5 ヶ年の志願者数及び志願倍率は、表 3 のとおりである。

総合経営学科（入学定員 80 人）の平成 28（2016）年度における志願者数は 231 人で、過去 5 ヶ年の内の最多数となり、志願倍率は 2.89 倍であった。平成 24（2012）年度からの推移を見ると、平成 27（2015）年度の 1.91 倍を除き志願倍率 2 倍台を維持し、過去 5 ヶ年の平均志願倍率は 2.34 倍である。

スポーツ健康学科（入学定員 80 人）の志願者数は、平成 28（2016）年度において 196 人と 200 人を割り込んだものの、平成 25（2013）年度から平成 27（2015）年度入試までの 3 ヶ年は、200 人を超えて推移しており、過去 5 ヶ年の平均志願倍率は 2.60 倍である。

健康栄養学科（入学定員 80 人）の志願者数は、平成 25（2013）年度の 266 人をピークとし、平成 26（2014）年度には 156 人と大きく減少している。過去 5 ヶ年の平均志願倍率は 2.69 倍であるものの、受験者数は減少傾向にある。

表 3 過去 5 ヶ年の志願者数及び志願倍率

学部名	学科名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	過去5年平均
総合経営学部	総合経営学科 入学定員：80名	164人 2.05倍	188人 2.35倍	198人 2.48倍	153人 1.91倍	231人 2.89倍	187人 2.34倍
	観光ホスピタリティ学科 入学定員：80名	128人 1.60倍	145人 1.81倍	152人 1.90倍	163人 2.04倍	168人 2.10倍	152人 1.89倍
人間健康学部	健康栄養学科 入学定員：80名	237人 2.96倍	266人 3.33倍	156人 1.95倍	212人 2.65倍	203人 2.54倍	215人 2.69倍
	スポーツ健康学科 入学定員：80名	181人 2.26倍	241人 3.01倍	205人 2.56倍	217人 2.71倍	196人 2.45倍	208人 2.60倍

・各年度の上段が志願者数、下段が志願倍率を示す。志願倍率は志願者数÷入学定員で算出した。

### (c) 志願者増加率

収容定員の増加を行う総合経営学科とスポーツ健康学科の過去5カ年の志願者数は、表4のとおりである。

総合経営学科においては、平成28(2016)年度に231人の最多数となり、5年前の平成24(2012)年度と比較した増加率は140.85%に上っている。また、平成27(2015)年度に一時的に減少しているものの、経年的に増加傾向にある。

スポーツ健康学科においては、過去5カ年の志願者数は200人前後で推移しており、平成24(2012)年度と平成28(2016)年度を比較した増加率は108.29%である。

更に、総合経営学部と人間健康学部全体の志願者数を見ても増加傾向にあり、安定的に推移している。平成24(2012)年度と平成28(2016)年度の志願者数を比較した大学全体の増加率は112.39%である。

こうした受験者数の推移の中にあって、健康栄養学科は平成26(2014)年度の志願者数が152人と大きく落ち込んだ後、平成27(2015)・28(2016)年度には、200人を超えているが、次の(d)に記述する学生募集の環境変化を想定している。

表4 過去5カ年の志願者数と増加率(平成24年度と平成28年度の比較)

学部名	学科名	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	増加率
総合経営学部	総合経営学科	164人	188人	198人	153人	231人	140.85%
	観光ホスピタリティ学科	128人	145人	152人	163人	168人	131.25%
人間健康学部	健康栄養学科	237人	266人	156人	212人	203人	85.65%
	スポーツ健康学科	181人	241人	205人	217人	196人	108.29%
大学全体		710人	840人	711人	745人	798人	112.39%

- ・増加率は平成28年度の志願者数÷平成24年度の志願者数で算出した。
- ・大学全体の数値は収容定員の変更を行わない学科を含む。

### (d) 入学定員の増減数の妥当性

総合経営学科の過去5カ年の入学者は、87人から114人の間を推移しており、入学定員を80人から10人増員し90人とするは、定員の適正管理のために妥当なものと判断している。また、スポーツ健康学科については、過去5カ年の入学者が101人から105人の間で推移していることから、入学定員80人を100人に変更することは、受験生のニーズに合致する適切な措置と考える。(表2)

なお、健康栄養学科の定員を10人減じる理由は、①平成26(2014)年度において定員未充足であり、その後も志願者数が減少傾向であること、②平成30(2018)年度4月、長野市に開設される長野県立大学に管理栄養士養成課程を有する学科が定員30人で発足する予定であり、学生募集において競合することの2点である。健康栄養学科の平成28(2016)年度在籍者のうち、長野市の出身者の占める割合は、17.3%で4学年合わせて58人である。1学年15人見当であることから、10人(入学定員の12.5%)の減員は妥当なものであると思料する。(表5)

以上に示した「入学定員超過率」、「志願者数及び志願倍率」、「志願者増加率」の動向から判断し、今般、収容定員を増加させる総合経営学科及びスポーツ健康学科、収容定員を減じる健康栄養学科は、確実に入学定員を充足し、なおかつ適正な定員管理が実現できるものと確信している。

表 5 平成 28 年度健康栄養学科在籍者の上位 10 の出身市等の比率

順	出身地	人数	割合
1	長野市（北信地区）	58	17.3%
2	松本市	50	14.9%
3	新潟県	35	10.4%
4	安曇野市	18	5.4%
4	上田市（東信地区）	18	5.4%
6	伊那市	16	4.8%
7	山梨県	15	4.5%
8	千曲市（北信地区）	13	3.9%
9	塩尻市	9	2.7%
9	須坂市（北信地区）	9	2.7%
上位 10 地区計		241	71.9%
在籍者数		335	100.0%

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、学生募集に対して組織的に取り組むことを目的として、入試委員会を設置している。入試委員会は、各学部を代表する教員 9 人と大学事務局入試広報室の職員 6 人の計 15 人で構成している。本委員会をもって、PDCA サイクルに則った平成 28（2016）年度の自己点検・評価に基づき、平成 29（2017）年度の学生募集の広報戦略を検討し計画していく。

なお、受験生に対する具体的な広報活動については、平成 30（2018）年 4 月から収容定員を変更する予定であることを示した上で、主として次の方法で行うこととする。

### 【オープンキャンパスの企画・運営】

オープンキャンパスは学生募集の広報活動の中で、極めて重要かつ有効なイベントと位置づけている。参加者の増員を図るために、開催日を高校生の補習授業や学校行事が多い土曜日から日曜日に変更し、計 4 回（6 月下旬、8 月上旬、8 月下旬、9 月下旬）実施する予定である。過去 3 年間の参加者総数の推移を見ると、平成 25 年：1,805 人、平成 26 年：1,755 人、平成 27 年：1,973 人、平成 28 年：2,139 人と安定した参加者を確保している。受験生の多くが参加するオープンキャンパスの機会を捉え、収容定員を変更することについて周知していく。

#### 【保護者相談会】

受験生の保護者を対象とする「保護者相談会」を実施する。オープンキャンパスが本格的に始動する前の5月に、松本市と長野市の2会場で開催する。松本会場は本学で、長野会場は宣伝効果を見込み長野朝日放送本社で実施する予定である。これらの機会を活用し、保護者に対しても収容定員の変更について周知を図る。

#### 【高校教員対象の学生募集説明会】

高等学校の教員を対象とする「学生募集説明会」を松本市と長野市の2会場において開催することとし、長野県の全高等学校と山梨県全域及び新潟県上越地区の高等学校に案内をする。本説明会では、本学の教育活動や就職実績、学生募集要項等について詳細なデータを示し、併せて今年度の収容定員変更について説明し周知する。

#### 【入試相談会】

オープンキャンパスとは別に「入試相談日」を特設する。10月、11月、1月の全3回にわたり実施する計画で、受験生の出願に向けた具体的な相談に応じていく。

#### 【高校訪問】

年間を通じておおよそ次の目的で長野県、山梨県、新潟県等の高等学校を訪問する。

- ・4月、5月：卒業生の就職状況、在学生の状況、入学試験の状況、オープンキャンパスの案内等
- ・6月：学生募集要項の説明（収容定員の変更等）、指定校推薦入試の案内、大学案内の配布、高校内の進路希望調査の把握
- ・9月、10月：具体的な志望動向の把握
- ・11月～1月：受験者の動向に合わせた高校毎の対応

#### 【高校会場での説明会・相談会】

進学情報業者主催及び高等学校主催による説明会・相談会に積極的に参加していく。長野県を中心とし、山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県などの近県の高等学校の企画に参加する。平成28(2016)年度はこのような企画に年間108回(平成29年1月現在)参加し、約1,800人の高校生と接触している。

#### 【進学説明会・相談会等】

業者が主催する公開会場での説明会については、長野県を中心として山梨県、新潟県、静岡県、石川県、富山県などの企画に参加し、幅広く高校生にPRしていく。平成28(2016)年度は55回(平成29年1月現在)参加し、約600人の高校生と面談している。

#### 【本学公式ホームページの活用】

公式ホームページにおいて、平成30年4月から収容定員を変更する予定であることを広く周知していく。また、各学科の教育の特色や諸活動のトピックスを速やかに配信することにより、受験生、高校教員、保護者の本学に対する理解が更に深まるようにする。

### 【広告媒体による広報活動】

主として長野県を中心としたマスコミ媒体を活用し、さらに全国レベルの進学情報誌を絡め、大学全体の広報活動を展開していく。

#### ①電波媒体（テレビCM）

長野放送、信越放送、テレビ信州、長野朝日放送、テレビ新潟、山梨放送

#### ②新聞・進学情報誌

信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、新潟日報他

本学にとって効果的な進学情報誌・進学サイトの活用

以上のような広報活動が高校生の進路選択の意向に沿って効果的なものとなるように、入試・広報委員会で随時点検しつつ組織的に総力を挙げて取り組んでいく。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

今般、収容定員を変更する総合経営学科、スポーツ健康学科、健康栄養学科の教育研究上の目的について、本学学則に次のように謳っている。

〈総合経営学部総合経営学科〉

社会一般及び地域社会を構成する重要な要素である企業に関わる総合的な経営知識を教授し、地域社会の運営を視野に入れて行動しうる、良識ある企業人の養成を目指すとともに、企業社会で活動するための知識・技術を涵養する。

〈スポーツ健康学科〉

(1) 人々の健康づくりおよび、地域の活性化に関わる課題を「運動・スポーツ」の視点から研究・教育する。(2) 幅広い教養と人間力を土台に、「運動・スポーツ」を学際的・総合科学的視点から捉え、多角的に分析・把握できる高度な専門性と実践力を備えた人材を育成する。

〈健康栄養学科〉

(1) 疾病を予防し、健康を維持・増進する食生活を実現するために、食や健康そして障がいに関わる問題を教育・研究する。(2) 人間の栄養状態を的確に把握し、適正化する方法を健康科学の面から探求し、専門分野において社会に貢献できる人材を育成する。

(3) 人々の健康づくりおよび、地域の活性化に関わる課題を「人間栄養学」の視点から健康と栄養との関係を捉え、総合的に分析、評価できる高い専門性を備えた人材を育成する。

### ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

#### (a) 就職率と就職満足度

本学に対する求人は、健康栄養学科で養成する管理栄養士やスポーツ健康学科の健康運動指導士の有資格者に対するものを除き、各学科共通に企業・各種団体等からのものを取り扱う形をとっている。過去5ヵ年の各学科の就職率は表6のとおりであり、90%台から100%の好実績を残している。この数値は、収容定員を増加する総合経営学科及びスポーツ健康学科を含め、本学の学生に対する社会的な人材需要の高さを裏付けるものである。

表6 過去5カ年の就職率（就職決定者数÷就職希望者数）

学部名	学科名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	過去5年平均
総合経営学部	総合経営学科	90.43%	96.12%	91.43%	95.77%	100.00%	94.75%
	観光ホスピタリティ学科	96.05%	92.31%	95.24%	97.18%	98.50%	95.86%
人間健康学部	健康栄養学科	95.71%	97.06%	97.33%	97.50%	100.00%	97.52%
	スポーツ健康学科	97.26%	97.44%	97.53%	98.88%	97.80%	97.78%

また、本学で毎年4年生を対象として実施している「卒業生アンケート」において、「あなたは卒業後の進路に満足していますか。」という問いを設け、卒業生の進路に対する満足度を測っている。総合経営学科、スポーツ健康学科、健康栄養学科の過去5カ年のアンケート結果は表7のとおりであり、大学生の就職環境が景気の動向に大きく左右される中において、いずれの学科とも、安定した満足度を示している。このことは、それぞれの学科で取り組んでいる人材育成の教育の中身が本学を取り巻く社会が求める人材需要の動向を踏まえたものであり、その結果として学生一人ひとりの進路実現に繋がり、高水準の就職満足度を生み出すという良好なサイクルを維持できていることを示している。

表7 過去5カ年の卒業後の進路に対する満足度のアンケート結果

〔総合経営学科〕

アンケート項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大変満足	27%	28%	35%	32%	27%
満足	29%	48%	43%	42%	56%
合計	56%	76%	78%	74%	83%

〔スポーツ健康学科〕

アンケート項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大変満足	35%	32%	28%	33%	34%
満足	46%	44%	46%	48%	54%
合計	81%	76%	74%	81%	88%

〔健康栄養学科〕

アンケート項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大変満足	25%	22%	14%	22%	28%
満足	57%	57%	55%	59%	58%
合計	82%	79%	69%	81%	86%

## (b) 求人社数と就職率

前出の(2)②で述べたように、求人する企業・団体側が特定の学科を指定するケースは少なく、各学科共通に企業・各種団体等の求人を取り扱う形をとっている。過去5カ年の求人社数と就職率の詳細は表8のとおりである。

本学に対する求人社数は、平成25(2013)年度の905社を契機に増加傾向に転じ、その後堅調に推移し、平成27(2015)年度には1,270社まで増えている。更に、平成28(2016)



年度においては、1,363社（平成29（2017）年3月10日現在）まで伸びている。

表8 平成23年度から平成28年度までの求人社数と就職率

学部	学科	平成23年度					平成24年度				
		卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数
総合経営学部	総合経営学科	104	94	85	90.43	717	108	103	99	96.12	701
	観光ホスピタリティ学科	85	76	73	96.05		84	78	72	92.31	
総合経営学部 計		189	170	158	92.94		192	181	171	94.48	
人間健康学部	健康栄養学科	78	70	67	95.71		75	68	66	97.06	
	スポーツ健康学科	84	73	71	97.26		85	78	76	97.44	
人間健康学部 計		162	143	138	96.50		160	146	142	97.26	
合 計		351	313	296	94.57	717	352	327	313	95.72	701

学部	学科	平成25年度					平成26年度				
		卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数
総合経営学部	総合経営学科	74	70	64	91.43	905	77	71	68	95.77	1,020
	観光ホスピタリティ学科	72	63	60	95.24		79	71	69	97.18	
総合経営学部 計		146	133	124	93.23		156	142	137	96.48	
人間健康学部	健康栄養学科	79	75	73	97.33		85	80	78	97.50	
	スポーツ健康学科	89	81	79	97.53		93	89	88	98.88	
人間健康学部 計		168	156	152	97.44		178	169	166	98.22	
合 計		314	289	276	95.50	905	334	311	303	97.43	1,020

学部	学科	平成27年度					平成28年度				
		卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数	卒業生数 (人)	就職 希望者数	就職者 数	就職率 (%)	求人社数
総合経営学部	総合経営学科	94	89	89	100.00	1,270	96	92	88	95.65	1,363
	観光ホスピタリティ学科	73	65	64	98.50		84	77	66	85.71	
総合経営学部 計		167	154	153	99.40		180	169	154	91.12	
人間健康学部	健康栄養学科	80	77	77	100.00		91	88	88	100	
	スポーツ健康学科	96	91	89	97.80		89	87	79	90.80	
人間健康学部 計		176	168	166	98.80		180	175	167	95.42	
合 計		343	322	319	99.10	1,270	360	344	321	93.31	1,363

- ・平成28年度の数値は平成29年3月10日現在の実績による。
- ・求人社数は当該年度に求人があった会社数であり、1社につき1人とは限らない。

このような実績から、本学の卒業生に対する社会的な人材需要について、今後も安定的に推移する見通しを立てることができる。

以上のことから、本学が計画している収容定員の変更は、人材需要の動向等社会の要請を十分に踏まえたものであり、収容定員の変更後も継続的に十分な就職先を確保することに特段の問題はないと思料している。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	スミジ ヒロユキ 住 吉 廣 行 <平成28年4月>		理学博士		松本大学 学長 (平成28.4～32.3)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。